

第4回「まちづくりびとサロン」の開催

開催日：平成24年11月29日(金)
時間：18時30分～20時30分
場所：名古屋都市センター 11階 カフェ
参加者：16名



名古屋都市センターの講座修了生で、まちづくりびとの登録をしている方及び地域でまちづくり活動を行っている団体等にご案内し、交流会を開催しました。

はじめに

はじめに、都市センター鬼頭調査課長より、サロンの趣旨説明とあいさつがありました。



司会進行は、(株)ソーシャル・アクティ代表取締役でまちづくりびとでもある林加代子さんです。

まずは、参加者の方に一人ずつ自己紹介や活動紹介をしていただきました。今回は、まちづくりびと以外にも、都市センター歴代の職員や西区役所・名東区役所の職員の方、また、高浜市からもご参加いただきました。





自己紹介の後、しばらくテーブルごとで情報交換しながら、
 歓談しました。今回は、会場のカフェが終了のため、参加者
 がそれぞれ、飲み物やお菓子などを持ち寄って、皆でいた
 きました。



高浜市との取り組み紹介

日本福祉大学国際福祉開発学部准教授でまちづくりびとでもある吉村輝彦さんに、高浜市
 で取り組んでいるまちづくりについてのお話をさせていただきました。



今からお話するのは、高浜の「ざっくばらんなカフェ」です。名前は違いますが、まちづくりびとサロンと趣旨は近いものがあるのではないかなと思っています。

私が最近考えているのが、カフェ的対話です。コーヒーを飲みながら、喫茶店でもいいですが、都市センターのこの場所もそうですが、カフェ的空間、話しやすい空間や雰囲気がとても大事なのではないのでしょうか。それがつながりや縁を育んだり紡いでいき、その関係から新しいことが起きるのではないかと思います。

最近「時は巡り人は繋がる場のデザイン」や「フューチャーセンターを作ろう」など、書籍等でも紹介されていますが、基本的には今日のような気楽なお話の中から新しい物事や未来を創っていかうとすることが大事ではないかなと思います。

「大事ではないですか」と言っているだけでは何も始まらないので、実際にやってみましょうという一環の1つが今日お話しする高浜のお話です。

なぜ、私がこういうことを思っているかということ、私自身の1つの原点は、名古屋市東区にある歴史的建造物「文化のみち榎木館」での経験です。人が集まって色々な話し合いをすると様々なことが進むのではないかと。色々な話し合いを進めていく要素として「空間」があるのではないかと思います。

ここは洋館と和館があり、庭や茶室を使って様々なイベントをやっているのですが、良い空間は色々なことを起こすのではないかと考えています。同時に、良い会話といたらおかしいですが、カフェ的対話から何か新しいことが生み出されるのではないかとということで始めたのが2009年に開催した名東区「わいわいがやがや会議」です。略して「わいがや会議」と言っております。

ここは「まちづくりびとサロン」、高浜は「ざっくばらんなカフェ」、名東区は「わいがや会議」と言っていますが、基本的には「何かやっていきたい」という人が、わいわいがやがやと自由に意見交換しながら何か事を起こしましょうという仕掛けをやっています。

人の集まり方には2つあって、これをやるから人が集まるということと、集まって色々な人と出会ったから何かしようというのがあります。今日のサロンのように何かあるから集まっているわけではなくて、集まったら何かありそうだという集まり方を私は大事にした方が良いと思っています。

今までは何か目的がはっきりしたものに人が集まるというところがあって、もう少し違う所からやっていくのがいいのではないかと考えたのが2009年度から始めた「めいとうまちづくりフォーラム」です。成果の一番手は、河口さんが今やられている「かえるプロジェクト」で2012年度に名古屋都市センターから助成金を受けてここまで進んできたのも大成果かなと思います。これは2009年度に区役所の事業で始めましたが、その後、予算が区役所から無くなり、あとは自立的にやらなければいけないということで、都市センターや他の所から助成金をもらい発展してきました。

こういうことをもう少し他の所でやりたいなと思っていたところ、たまたま私が昨年从高浜で仕事をする事になり、始めたのが「ざっくばらんなカフェ」です。これは大学が一つの地域にどう係わるかという趣旨で始めたのですが、大学が地域に係わる時には、様々な係わり方があるといいのではないかと考えて始めました。

2011年7月に始め、趣旨は「めいとうまちづくりフォーラム」とほぼ同じです。年齢、職業、立場の垣根を越えてテーブルを囲み、ざっくばらんに話すことを楽しむカフェです。いろいろな立場の人たちが交流を通じて新たな繋がりが作られ、新たな何かを生み出していければいいという、ゆるやかな目標でやりましょうということです。

私の勝手な理解では、行政はこういう目標ではできないと思います。というのは、何が出てくるのか分からないからです。私は、何が出てくるか分からないので出来ないのではなく、絶対に何か出るからやりましょうと言うのですが、「ではやりましょう」という行政の方はなかなかないです。私は楽観主義なのでやればできると思っているのですが……。その一步をどう乗り越えるかが一番難点でした。

このサロンはこういう空間があって出来ていますが、高浜でやっているのは常設型ではなく定期的な開催を目指して始めました。そのため、どこで開催してもいいのです。やり方は毎回一つのテーマを持ち、前半は誰かが話題提供し、後半はカフェ的にお茶、お菓子もあり、各テーブルに分かれ自由に語り合うスタイルでやっています。会場は今日みたいにカフェ的空間に演出し、地域にある店のお菓子を提供しています。

昨年の7月25日に第1回を開催しました。高浜市には「みかん高浜駅」という駅があり、駅前の再開発ビルの中に福祉のスペースがあります。ここを使って「コミュニティカフェ」というテーマで開催し、30名程集まりました。

第2回に企画責任者である先生と市長の対談を行い、規模も70~80名に増えました。最初のスケールと違ってきました。

第3回は名古屋市東区からゲストの方に東区のお話をさせていただきました。この時は高浜市の公共施設で昔ながらの空間があるところで開催しました。私は「空間がいろいろな人の関係を強めるのではないか、高めるのではないか」と思っていますので、ここで開催しました。基本的には毎月がんばってやろうというスタンスでやっています。

第4回はかわら美術館のオープンスペースを使って開催しました。前半は「私の思う高浜の宝物」という題で事前に写真を撮っていただいたものを送ってもらい、それをプレゼンターとして皆に発表してもらいました。後半はそれをネタに皆で少しお話をしてもらいました。その後、学芸員の方をお願いをして「アートでまちづくり」というお話をさせていただきました。

今年に入ってから、高浜に関わる高校生、若手職員、10代20代の方7名にお話ししてもらい、テーブルに戻った後は比較的年齢の高い方が多かったのでなかなか大変だったらしいですが、話題提供してもらった後で少しお話するというようなことをやりました。

アート系もたくさんやりまして、鈴木としはるさん、名古屋造形大の高橋さんをお呼びして福祉と芸術（アート）とまちがどう絡み合っているかというお話を聞いたりもしました。

第9回では今までの1年間をふり返るような企画をし、節目には市長、センター長に来ていただきました。

第10回では、「生涯現役（いきいき元気）にしていくためにはどうしたら良いか」今、高浜で取り組んでいるのですが、山口県に「夢の湖村」というデイサービスをしているところがあります。これは全国的にも有名でおもしろい取り組みをしているのですが、その人の話を聞きながら高浜で観光協会会長をしているお豆腐工房「いしかわ」さんとペアになってお話させていただきました。なぜ観光協会かと申しますと、生涯現役と考えるには、単に福祉的というより、ここで私が思う前提は「みんなで地域の中で元気にいろいろな活動をしていきましょう」と・・・福祉サービスをいかに提供するだけでなく、いろいろな形で係わるチャンスがあったらいいのではないかと思います。観光協会や企業の方のお話を聞きました。

いろいろと調子に乗りまして第11回、名古屋では円頓寺で「わや」という映画を作りました

が、高浜では「高浜物語」という高浜市が作った映画があります。キャストは全員市民で、総監修は堤幸彦さん、監督は愛知淑徳大の石丸みどりさんで制作しました。

映画に携わった方、監督も含めて出演した方、それを支えた方にどういう思いで映画を作ったかをお話していただいて、その方たちとざっくばらんにお話するという機会を作りました。

そしてもう少しモノづくりをしてみてもいいのではないかと思います、人数は少ないですが、生涯福祉サービス事業所のチャレンジサポート高浜と協働で「かみすき体験」を通じて、この事業所がどういうことをやっているか知ると同時に交流をはかるカフェをつくりました。

第 13 回では、今、高浜は全国的に福祉で有名なのですが 1 つの取組法として回想法という昔のまちはどうであったかという振り返りから、これからも元気に生きていこうという取り組みがあり、専門の大学の先生をお呼びして、昔の写真を見ながら昔話をするという企画を行いました。

第 14 回では、高浜の地域産業、「三州若鬼士会」から 5 人に来ていただいて、実演を含め瓦づくりへの思いをお話していただき、その後に鬼土さんといっしょにお話をするという場をつくりました。

基本的にテーマは当事者の方にいろいろとお話をしてもらいながら、その後に実際にざっくばらんなお話をするという企画で第 14 回までやってきました。

第 15 回は、高浜高校 生徒会執行部と何かできないかと企画しています。只今、調整中です。

第 16 回は、年に 1 回、大きいのをやりたいなと思い長久手市長と高浜市長とセンター長の鼎談をしようと計画しています。

こういうことをしていると最初はまったく想定していないことが起こりまして、定期型でしていたのですが、常設型ざっくばらんカフェでやりたいという方が地域の中から出てきました。

昔、建具屋だったところで、空いている場所があり、それを少し変えて常設的に常に行けるような場所にしたいなという方が出てきて、それを今、「ざっくばらんカフェ・田戸町店」と名乗っています。毎日、毎日やっているわけではないのですが、看板を地域の方が作ってくれました。

市民の方以外にも職員版、市役所の方たちもざっくばらんに話し合いをしたほうがいいのではないかというのが出てきました。その裏には普段、役所の方は気楽にいろいろなことを話していないのでは・・・。それがこういう雰囲気の中でやると新しいアイデアが生まれたりするのではないかということで、こういう空間を作りながら研修を行っています。

三河高浜駅前の再開発ビルの中の 2 階 3 階に福祉のワンストップサービスの場所があり、この場所をいかに市民の人たちが使いやすいように、あるいは知ってもらうために、現在、パンフレット作りをしています。職員の方が研修の一環で気楽な中でやっています。

始めはそのようなことは想定していませんでしたが、いろいろな空間に市民の人たちだけでなく市の人たちが参加していくと、こういう雰囲気の中でやると楽しいし、大事だと気がきました。

「真面目だけれども遊び心の中から新しい何かを生み出していこう」「これをやるから皆で話

を聞きましょう」だと入口を狭めてしまうので、まずは集まる場所から、何かのきっかけになればいいのです。

美術館とコラボレーションするというのは、大学側の意図ではなく、たまたま参加者の中に美術館の関係者がみえて、一緒にやっていくとおもしろいのではという話になり、始めました。チラシを作ってもらったり、美術館を使ってこのようなサロンをやってみたりしました。

ここですと、ボストン美術館と合同でまちづくりびとサロンをやると面白いと思うのですが、一番印象的なのは、名古屋市の人がボストン美術館にどれだけ行っているか分からないですが、大抵自分の地元にある美術館、科学館、博物館は行かないですし、ボストン美術館の学芸員が誰か知らないでしょう。

でも、そこで働いている人はいろんなことを知りたいと思っているし、関わりたいと思っているという関係がお互い必要としていたことに気付かされました。

美術館の常設展ではなく、特別展で「アート・ブリュット・ジャポネ」という障がいとアートの中では有名なイベントで、文化のみちでも近い取り組みが行われていますが、一緒になってWSができるというようになっています。

先ほどお菓子の話を少ししたのですが、今日は皆さん持ち寄りですが、高浜では基本的には地域のお店にお菓子を作ってもらって出しています。あとは講師が自前で作ったりしています。地域のお店と大学、行政が繋がって、例えば試作品でもいいから、こういう場所に出してもらうとか、それがいずれ製品化（商品化）に向かって繋がっていく。何か物事が起こるときの途中段階の係わり方によって巻き込んでいくと、実はいろいろなことが出来るのだと分かりました。

市長に私の授業に来てもらうとか、（公私混同ではなくて）関係性が何かのきっかけで生まれてくると、様々なことが生みだされてくるのではないのでしょうか。

それは講演会みたいな固い場で繋がるのではなくて、まちづくりびとサロンのような繋がり方が私はすごく大事だと思いますし1つの例が高浜ではないかなと思います。





吉村さんのお話の後の交流会では、高浜市からお越しいただいた日本福祉大学の井原さんにも質問があり、高浜市と大学との調整や苦労した点、回を重ねるごとに参加者も増え、盛り上がる秘訣などについてお話していただき、成功例を参考にしたいとの感想がありました。

*アンケートより

参考になる情報や新たな出会いはありましたか

あった・・・ 11名 なかった・・・ 1名



具体的にどのような内容ですか

- ・ なかなか話を深めるのは難しいですネ、時間的にも。
- ・ 以前からの知り合いの方々の活動状況を知ることができた。
- ・ 名古屋都市センターについて全く知らなかったので、素敵なお方々が働いていらっしゃるんだなあと思いました。
- ・ 「まちづくりびと」さんの仕事が聞いて良かった。
- ・ 色々な人達と違った話題で良かった。
- ・ ざくばらんからテーマを見つけること、昨年の提案と同じです。
- ・ 渡辺、井原、河口、坂下、青山、花田 様と知り合えた。
- ・ まちおこし、都市計画、教育、河川（地理）幅広く。
- ・ まちづくりびとさん達の想い。（どういう風に自分達の事業に結びつけていくかが我々の課題と思っています。
- ・ まちづくりについての色々な人の意見。
- ・ とにかく元気で何かに向かって積極的に取り組む前向き指向がよくわかった。

全体を通じたご意見・ご感想など

- ・ 席を移動しにくいなあと感じました。遠くの席の方ともお話できるとよかったです。
- ・ まちづくりにかかわっている人などと触れ合うことができ、すごく刺激になりました。ありがとうございました。
- ・ もう少し人数がふえると良いと思います。今年のまちづくり活動助成に参加したメンバーも参加をもっと積極的に勧誘したらと思います。まちづくりのお互いの良い話、苦勞話の交換会になると！
- ・ まちづくりの世話人を集める努力をして下さい。元気な名古屋をつくるために。行政の努力が足りないと思います。良い勉強会であるから。
- ・ 楽しいひと時でした！
- ・ 年輩の方たち（河口さん、青山さん、高木さんなど）の知識の幅の広さ、深さには驚くばかりです。多くの学びがあり、貴重な機会となりました。
- ・ ありがとうございました。今後ともよろしくお願いします。
- ・ 何かちょこっと良かった。
- ・ 区役所としての参加というより、一個人として様々な意見が聞けるようにしたら良かった。
- ・ 地域の文化伝承をうまく汲み取って活性化と特色化に生かせたらいい。それぞれの「まち」の歴史をふり返ってみるのもいい。